米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く(159)

ニホンジカから山を守れ
―天然記念物の危機―

米原市の豊かな自然の中では、さまざまな生物が結びつきを持ちながら生きていて、一定のバランスが保たれてきました。その中には、人が暮らしを営む里地・里山も含まれます。サルやイノシシが農作物を荒らす「人の生活空間に野生動物が出てきた問題」は市内でもよく聞きますが、数ある野生動物のうち、ニホンジカだけは人の生活とは離れた山そのものに大きな影響を与えています。しかも、その程度は広範かつ深刻です。数十頭のシカの群れが複数いることでさまざまな問題が起こります。「シカ問題は山問題」とも言われます。

米原市小泉には、江戸時代後期に築かれた、野生動物から田畑を護る「シシ垣」という石塁があります(市文化財)。戦国時代の狩猟により激減した野生動物が、江戸時代に農民が鉄砲を所持しなくなると、このころ急増し獣害対策が急務となりました。明治時代を迎えると狩猟が娯楽化し、乱獲により再び激減、シカが珍しい動物として保護される政策もとられました。しかし、二〇〇〇年が過ぎるころ、植物学者達がシカの影響を報告し始めます。

霊仙山では、過去二〇年間ほどでシカが急速に増えて、ササに覆われていた山頂の植物相が激変しました。一般に、シカが自然の植物を食べることを「被害」とは呼びませんが、伊吹山のニッコウキスゲのように見られなくなった植物もあり、霊仙山や伊吹山の斜面では、シカの食害により地表植物がなくなり、雨が地面を直接打つようになり、土壌が流失しています。昨年七月の豪雨では、登山道の崩落が生じました。高密度で集団で行動するシカが、今後、人命にかかわる災害や、防災工事などの経済的にも大きなマイナスを生むのです。

シカはたいていの植物を食べますが、好き嫌いもあってまったく口にしないものもあります。伊吹山では、こうした植物だけが、スクスクと本来より幅を利かせ、かつてのお花畑の面影が失われています。さらに、植物を利用する昆虫や鳥などの生き物にも間接的に影響します。ウグイスはササヤブを好み営巣しますが、ササがなくなると暮らしにくくなります。山頂付近で群舞するヒメボタルも、エサとなるカタツムリが減少して、個体数を減らしています。

シカは警戒心が強い動物です。昼間は林の奥に潜んでおり、人の気配を感じるといち早く逃げてしまいます。しかし、現在の伊吹山では、とくに午後、多くの登山客がいるにもかかわらず、数十頭の群れが悠然と草を食んでいます。いたるところにシカの糞が散乱し、動物園のような臭いがします。さらに、ニホンジカは初産年齢が早く、通常一歳で妊娠可能となり、二歳の春に母親になります。霊仙山や伊吹山のような積雪地では子ジカの死亡率が高かったのですが、近年の暖冬傾向で、生存率が上がり集団が大きく増加している可能性があります。

国の天然記念物である伊吹山頂のお花畑は、約三キロメートルに及ぶ植生防護柵で囲まれています。五月には東登山道に広がる潅木林を中心にシカの柵外への追い出し作業が行われましたが、植物群落に対するシカの執着は強く、エンドレスで保全活動が行われています。

(生涯学習課歴史文化財担当)

▲登山道付近のシカ集団(伊吹山)

▲防護柵の内側(左)と外側の植生の違い(伊吹山)

消費生活相談コーナー

偽メールに注意してください

スマホに「不正なアクセスがありました」「サイト利用料が未納です」などのメールが届いたら?

消費生活相談員より一言

メッセージの中に、特定の具体的な契約内容などが記載されていなければ、不特定多数に一斉に送信されたメールかもしれません。無視をして関わらないようにしましょう。

「おかしいな」と思ったら、一人で悩まず、まずは消費生活相談窓口へご相談ください。

市 消費生活相談窓口(本庁舎)
相談専用 ☎53-5110
(受付) 平日 9時30分～16時

米原警察署情報

問 米原警察署 ☎52-0110

夏休みは危険がいっぱい!? 青少年の非行・犯罪被害防止

夏休み期間中は、開放感や気のゆるみ等から非行に走ったり、犯罪被害に巻き込まれたりする傾向があります。
インターネット上には、有害なサイトや情報が多数氾濫しており、スマートフォン等を通じて簡単に目にすることができてしまいます。
SNS などインターネットを通じた非行や犯罪被害から青少年を守るため、見守り活動に地域全体で取り組みましょう。

令和3年市内交通事故数(5月末時点)
件数　15件(−21件)　死者　2人(+2人)
傷者　15人(−31人)　※( )内は前年比